同志社大学

政策学部

Faculty of Policy Studies 2026

20th ANNIVERSARY
FACULTY OF POLICY STUDIES
DOSHISHA UNIVERSITY

学部をはみ出せ、その“策”で挑め。

世界をのぞく
社会を変える

世界をのぞく

私たちが生きる世界は、
地球規模から身近なことまで問題が山積みです。

例えば、気候変動、少子高齢化、地方創生、
ダイバーシティ、格差、紛争、ガバナンス…と
挙げればキリがありません。

あなたは、どんな問題が気になりますか？
まずは、世界をのぞいてみよう！

同志社大学政策学部では、自分で問題・課題を発見し、
解決できる人になれるよう、
独自の学びを用意しています。

知見

社会科学の４分野を横断的に学ぶ

社会科学の様々な学問を
行き来することを楽しもう！

エビデンス

調査・分析する技能や思考を身につける

実際のデータを使って分析したり、
事例を調査して整理したりする
能力も身につけよう！

実行力

問題を発見して解決策を提案する

自分が見つけた課題に対して政策立案を行い、
そのプランを実践して
チームワークやリーダーシップを養おう！

社会を変える

同志社大学政策学部でしっかり基礎を身につけ、
政策立案して行動できる人になり、
社会をより良く変えていこう！

4年間の学び

**しっかりと基礎を身につけた上で、
自ら問題を発見して解決できる能力を磨く**

早期卒業制度について

政策学部では特に優秀な学生を対象に、3年次秋学期終了時に学士の学位を取得して卒業できる「早期卒業制度」を設けています。
本制度は、同志社大学大学院総合政策科学研究科との連携教育システムに位置づけ、優れた才能を一層伸長できると期待できる学生を早期に総合政策科学研究科へ進学させる制度として運用するものです。

◀関連情報はこちら

1年次

大学での学び方やスキルなど基礎を身につけます。

春学期 | 秋学期

2年次

多様な科目を受講し、
秋学期から始まる演習（ゼミ）に取り組みます。

春学期 | 秋学期

3年次

フィールドワークなど実践的に
各自のテーマの学びを深めます。

春学期 | 秋学期

4年次

それまでの集大成となる卒業論文を執筆します。

春学期 | 秋学期

オリエンテーション科目

- First Year Experience
  政策学入門

基礎能力養成科目

- アカデミック・スキル１
  （定量 / 定性・読解）
- アカデミック・スキル２
  （イシュードリブン）

卒業研究プロジェクト

▶演習（ゼミ）活動については P5〜6 をご参照ください。

春学期	秋学期	春学期	秋学期
演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	卒業研究演習Ⅰ
			卒業研究演習Ⅱ 卒業論文
フィールド・リサーチ			
		リサーチ・ペーパー	
プロジェクト演習			

基礎科目

行政学入門　公法入門　統計学入門　組織論入門
政治学入門　現代経済入門　経済学入門

導入科目

人と組織　社会政策　政策過程論　憲法１　政策思想
企業組織論　社会調査入門　ミクロ経済学と人間行動
マクロ経済指標　キャリアデザイン１・２　政策トピックス

展開科目

【A 群】　公共性論　政策形成論　政策分析　地方自治論
憲法２　立法過程論　国際貿易　国際金融入門
経営組織論　意思決定論　人的資源管理
政府体系論　国際政治学　国際法　地域政策　行政法１（総論）　行政法２（救済）
公共経済学　開発政策　社会保障政策　現代社会と組織
ミクロ経済学と政策　マクロ経済政策　現代国際政治

【B 群】　政策実施論　政策評価論　応用政策分析
国際金融市場政策　国際協力政策　国際機構
政策法務　環境法　環境政策　文化政策
ジェンダーと社会構造　ジェンダー政策
国際平和政策論　比較政治学
行政管理論　国際政治史　グローバル経済論
行政組織論　NGO・NPO論　現代組織論
観光政策　京都観光論　環境マネジメント
スポーツ法政策

【C 群】　コミュニティ創造政策　行政責任論　比較政策論
公共経営論　雇用関係法　資本市場政策
金融政策　金融制度　ベンチャー政策　外書講読（英）

【D 群】　政策特殊講義Ⅰ　政策特殊講義Ⅱ

First Year Experience

入学してすぐ　少人数クラス

新入生がスムーズに大学生活へなじめるように

入学してすぐに全員が受講する科目がFirst Year Experience、略してFYEです。1クラス15人前後の少人数で開講され、新入生がスムーズに大学生活へなじめるように企図されたオリエンテーション科目となっています。
この科目では、学習生活を進めるうえで必要となる学内情報へのアクセスの仕方やレポート作成の基本的な知識が得られます。図書館、データベースなどの学内資源やラーニングコモンズなど学内施設を活用し探求する姿勢を、学びの一歩として、個性あふれる教員が丁寧に導いていきます。
学生同士の議論を深めることも特徴の一つです。グループワークによるリサーチのなかでチームビルディングを体験し、問題を解決するプロセスを通して自らの意見を述べる、そして様々な意見を聞く機会となります。

アカデミック・スキル

1年次秋学期〜2年次春学期　少人数クラス

問題の本質を見える化するスキル習得

アカデミック・スキル（AS）は、社会や企業の課題を「見える化」し、効果的な解決策を導くスキルを習得する科目です。少人数制クラスで丁寧な指導を受けながら、実践的な学びを深めます。1年次秋学期にAS1、2年次春学期にAS2を履修します。AS1では、定量データ分析や定性分析、読解スキルを学び、分析的探究力を高めます。データを用いて問題の本質を可視化し、事例整理や論理的思考によって課題の特徴を明確にする力を養います。AS2では、「何が問題か」を常に念頭に置きつつ解決策を導く「イシュードリブン」の思考法を磨きます。政策分野ごとの課題を探究し、定量・定性的な分析を通じて潜在的なニーズを把握する力は、社会での活躍における強力な武器となるでしょう。

多様なゼミ活動

キャンパスからの提言

足立光生ゼミ：ビジネスコンテストにて最優秀賞受賞

学外での実践的な挑戦が盛んな政策学部では、多くのゼミが政策立案やビジネスプランを競うコンテストに参加しています。例えば、足立ゼミでは「投資、市場、企業」をテーマに「ビジネスの勘どころ」を身につけることを目指して実践的な教材に仲間と協力しながら取り組み、学びの成果を学外で力試し。最近では、「キャリアゲートウェイ2023ビジネスコンテスト」で最優秀賞をゼミ生が受賞しています。同じ目標に向けて努力した「仲間との絆」は、卒業後も大きな財産となるでしょう。

まちづくり活動

小谷真理ゼミ：お寺で多世代が集う エシカル・マルシェを開催

政策学部では、多くのゼミが地域社会の課題解決や活性化を目指した「まちづくり」に取り組んでいます。地域に足を運び、住民や団体と連携し、伝統産業の継承や環境意識の向上、多世代交流の促進など、多様なテーマに挑戦。理論と実践を融合させた学びを深めています。フィールドワークやヒアリング調査を通じて課題を分析し、解決策を提案・実践。自治体の補助金を活用し、事業化するゼミもあります。持続可能な地域社会の実現に向けた、具体的で継続性のある活動を展開しています。

企業連携

田中秀樹ゼミ：企業と連携して現場の課題を発見・解決

政策学部には、企業や経済団体と連携するゼミが多く存在します。例えば、毎年大手商社グループと連携し、人材育成のための研修企画案を提案しているゼミもあります。学生は、企業や経済団体から与えられた課題(problem)に対して、政策学部での学びで得た知識を踏まえ、学生ならではの視点を活かして課題解決のための提言や実証を行います。さらに、企業の現場を訪れ、ヒアリングや観察を通じて課題を整理し、課題に対して理論的にアプローチする方法を考え、実践的なPBL（Problem-Based Learning）を進めています。

SELECTED SEMINARS

自分の興味で選べるゼミ（一部紹介）

※学年は取材時のもの

久保 真人ゼミ

KUBO Makoto seminar

社会の課題を発見し、その解決策についてビジネスの枠組みから考えます（ビジネスプランの作成）。友人関係とは違い、ゼミでは自分とは違った価値観の人と協働して課題に取り組みます。この経験を通じて、多様な視点から社会や組織について考える力を養うことができます。

入学当初から経営学について学びたいと考えていました。久保先生による経営学の講義はとても興味深く、ぜひとも先生のもとで学びたいと久保真人ゼミに入りました。ゼミでは、ビジネスコンテストで良い成果を出すため、企業分析や経営戦略について研究しており、調べたことについて毎週プレゼンテーションを行っています。このゼミを通じて、経営に関する知識はもちろん、社会に出て必要とされるプレゼン能力が向上したように感じています。久保真人ゼミでは、企業やビジネスの実情について学ぶことができ、個性豊かで魅力的なメンバーとともに密度の濃い大学生活を送ることができます。

3 年次生 **山口 恵渡**

入江 容子ゼミ

IRIE Yoko seminar

自治体組織の内外における課題を発見し、様々な角度から解決策を探っていくことがテーマ。演習Ⅲでは毎年東海地区 9 大学との合同ゼミ、上京区との連携事業における現地調査、論文執筆と政策提言などを行っています。学生の自主性が重んじられ、和気あいあいと取り組んでいます。

入江容子ゼミを選んだ理由は「実現可能性」。机上の空論ではなく、すぐにでも実現可能な政策立案ができるようになりたいと思っていたからです。また主体的に行動できる環境であり、基礎知識の習得とともにアウトプットも学べることが魅力でした。京田辺市が主催する政策立案コンテストに挑戦したり、上京区との連携事業に取り組んだり、9 大学との合同ゼミに参加したり…。いずれも調査ヒアリングによって発見した課題に対する政策を資料にまとめ上げ、プレゼンテーションを行います。数多くの経験を通じて「プレゼン力」「文章力」「協調力」「課題発見能力」を養えます。

3 年次生 **河野もも**

川井 圭司ゼミ

KAWAI Keiji seminar

「スポーツは社会の写し鏡」ともいわれ、スポーツから社会の仕組みや課題を学ぶことができます。そのため、ゼミでは学生が主体となる実体験を重視し、五感を活かして理解を深め、多角的な視点から議論を重ねることを大切にしています。また、ゼミの枠を超えた国際交流などにも積極的に取り組んでいます。

1・2年次で受けた川井先生の授業が圧倒的に楽しく、海外フィールドワークでインドに行けるので、川井圭司ゼミを選びました。研究分野は「スポーツ法政策」。スポーツというフィルターを通して、多様な社会問題にアプローチしていきます。例えば、私たちが実際に議論を行ったテーマは「スポーツとジェンダー」。ゼミ生一人ひとりが主体的に問題と向き合い、みんなで議論を重ねていくことで、徐々に各問題の本質を見抜く力がついていきます。川井圭司ゼミで大事なことは、いかにみんなをハッピーにできるか。ゼミ生全員でスポーツの世界をより良くできるよう楽しく学んでいます。

3 年次生 **湯浅 遥**

新見 陽子ゼミ

NIIMI Yoko seminar

開発途上国が直面する課題や国際協力の在り方、多文化共生などについて考えます。海外でのフィールドワークなどを通して、現地に赴く「行動力」、現地の人々の声を「聞く力」、「異なる文化や習慣、価値観を理解する力」などをゼミの仲間と切磋琢磨しながら培っていきます。

高校時代にニュージーランドへ留学していた経験から「多文化共生」に関心があったことと、新見先生の優しいお人柄に惹かれて新見陽子ゼミを志望しました。海外フィールドワークでは「格差班」としてスラム街を訪れ、現地の方々に積極的に質問して学びを深め、帰国後には成果報告を行いました。また、新見先生がゼミ生に合わせて学びの機会を提案してくださるので、「自分が何に興味があるのか」を常に考えることができます。こうした実践によって、主体性とプレゼンテーションスキルが身につきました。国際問題に興味を持った学生が集まり、まさに「多文化共生」を実現しているゼミです。

3 年次生 **西村 京子**

FIELD WORK

海外フィールドワーク

富樫耕介ゼミ　月村太郎ゼミ

国家の解体と紛争、民族の共存と和解について学ぶ バルカン研修

富樫耕介ゼミと月村太郎ゼミは、国際政治学を研究するゼミです。例年、両ゼミ合同でバルカン研修を実施しています。

2024年度は12日間の研修で、まずシンガポールとイスタンブールを経由し、ボスニア・ヘルツェゴヴィナに入りました。紛争を経験した同国の歴史を視察を通して学び、サライェヴォ大学の学生と交流しました。その後、ウィーンに飛び、オーストリア＝ハンガリー二重君主国の展示が充実している軍事史博物館などを視察し、セルビアに入りました。セルビアでは、ベオグラード大学の学生と交流し、現地の博物館なども視察しました。またボスニア・ヘルツェゴヴィナ同様、日本大使館を表敬訪問し、現地学生に向けて日本についてのプレゼンもしました。

研修に先立ち参加者は新書を読み、各自で少し勉強しますが、現地で発見することも多くあります。現地の学生との交流を通して、日本を相対化し、新しい気づきを見つける学生もいます。海外研修の醍醐味は、様々な経験をすることです。現地での交流や視察以外にも経験は盛りだくさん（8回飛行機に搭乗、国際空港での長時間の待機、英語でのコミュニケーション、外国での未知の経験、美味しい食事＋α）、毎年、多くの学生が成長しています。

サライェヴォ大学での学生交流の様子

ベオグラード大学での学生交流の様子

虐殺のあったスレブレニツァ（ボスニア・ヘルツェゴヴィナ）の集団墓地

ウィーンの街並み

国内フィールドワーク

田中宏樹ゼミ

創造性×実現可能性で 地域社会を動かす提言を構想

田中宏樹ゼミでは、ゼミ生のアイデアを現実の社会課題の解決に結びつけていく政策提言活動を行っています。具体的には、ゼミ生にとって等身大の課題発見・課題解決につなげやすいことを意識して、自治体向けに地方創生策を練る政策アイデアコンテスト（たつのアカデミー）に出場し、探究成果を発表しています。

2024年は、兵庫県たつの市の脱炭素の取り組みを前進させる環境政策を探究テーマに設定し、市長、副市長に政策提言しました。ゼミ生は、まず、現地フィールドワークを通じて、エコポイントや省エネ家電の購入推奨など住民への環境意識の啓発に重きを置く従来の環境政策の限界に気づくとともに、「環境意識」と「環境配慮行動」にずれがあることを住民アンケートから突き止めました。たつの市でより実効性のある環境政策を推進するため、住民に身近な食習慣に着目、環境配慮行動を自発的に選択するよう促す「グリーンナッジ」の手法を活かし、子育て世帯に生活習慣病予防につながる植物性由来の食品摂取行動を勧奨することで、自身の健康増進に加え、（植物性食品の摂取が温室効果ガス削減につながることを踏まえた）環境負荷の低減にも向かえる「環境×健康」を柱とする政策パッケージを考案し、2019年から6年連続での最優秀賞受賞を果たしました。

最優秀賞状を手にチームで記念撮影

たつの市職員とのキックオフ会議

海外留学

本学では、各種留学プログラムを充実させて、グローバル人材の育成に力を注いでいます。

留学体験記

2024年度参加学生
立石 登悟さん 3年次生
※学年は取材時のもの

留学先 ポモナ大学　留学期間 2023年8月～2024年5月

●きっかけ

私は環境問題に強い関心があるため、脱炭素など環境に関して最先端の取り組みを行っているカリフォルニア州に留学をしたいと思いました。留学先大学もたくさんの選択肢がありましたが、リベラルアーツ系の大学で幅広い学問に触れ、様々な角度から政策について学べることが大学選びの決め手でした。

●留学で学んだこと

「人種のるつぼ」とも呼ばれるアメリカで多様なバックグラウンドを持つ生徒と勉強し、社会問題の捉え方や直面する課題は人々の出自や経験によって大きく異なることを学びました。各々の経験を「お宝」と捉え、積極的に発信していく環境が新鮮で楽しかったです。勉強に限らず食文化など共有するイベントも頻繁に開かれ、遠い国の文化を肌で感じることができました。

●これからの目標

経験や価値観にとらわれず、学び続ける姿勢を大切にしたいと思います。留学中、一つの視点だけではグローバルな問題を理解できないと実感しました。一年間の留学で学んだことを糧に、今後も様々な価値観に触れて成長し続けたいと思います。

同志社大学の留学プログラムおよび奨学金により留学・海外活動をした政策学部生 **141** 人（2024年度実績）

同志社大学の留学プログラムによる主な留学先一覧

- ケンブリッジ大学（イギリス）
- マンチェスター大学（イギリス）
- リーズ大学（イギリス）
- ニュー・サウス・ウェールズ大学（オーストラリア）
- ディーキン大学（オーストラリア）
- カリフォルニア大学デービス校（アメリカ）
- カリフォルニア大学アーバイン校（アメリカ）
- オークランド大学（ニュージーランド）
- オタゴ大学（ニュージーランド）
- エクス・マルセイユ大学（フランス）
- 北京大学（中国）
- サラマンカ大学（スペイン）
- テュービンゲン大学（ドイツ）
- ソウル大学（韓国）
- オーフス大学（デンマーク）
- ワルシャワ大学（ポーランド）
- ヴェネツィア大学（イタリア）
- オスロ大学（ノルウェー）

政策学部のゼミ活動による主なフィールドワーク先一覧

- タマサート大学（タイ）
- JICAタイ事務所（タイ）
- JETROバンコク事務所（タイ）
- シーカー・アジア財団（タイ）
- トロント・メトロポリタン大学（カナダ）
- トロント市役所（カナダ）
- NPO法人スコット・ミッション（カナダ）
- マケレレ大学（ウガンダ）
- 在ウガンダ日本大使館（ウガンダ）
- 小規模有機栽培農家組合BOCU（ウガンダ）
- マバンバ湿地エコツーリズム協会MWETA（ウガンダ）
- サライェヴォ大学（ボスニア・ヘルツェゴヴィナ）
- 在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館（ボスニア・ヘルツェゴヴィナ）
- カリンガ工業技術大学（インド）
- 在インド日本大使館（インド）
- ニース・ソフィア・アンチポリス大学（フランス）
- シェーラー高等学校（アメリカ）
- ノーススター小学校学童施設（デンマーク）

学生主体の取組

白熱の政策学部 ゼミ対抗 バレーボール大会

P-cup

各ゼミでおそろいのTシャツを作ったり、みんなで練習したり、どのゼミも気合い十分！
近くの体育館を借りて練習するゼミも。学生・教職員が一丸となって盛り上がるイベントです。

政策学部創立20周年記念事業

― 学部をはみ出せ、その“策”で挑め。―

政策学部は、2024年度に創立20周年を迎えました。これを記念して、2024年11月23日、記念シンポジウムおよび祝賀パーティーを開催しました。シンポジウムでは、学部の創立にご尽力いただいた真山達志教授による基調講演のほか、各界でご活躍されている卒業生をパネリストとしてお迎えし、政策学部での学びの特徴やその学びが現在の活躍にどのようにつながっているのかなどについてお話しいただきました。今回の記念事業は、20周年という記念すべき節目において、在学生、卒業生、教職員が一つとなって、これまでの政策学部の歩みを振り返るとともに、これからの20年について考える貴重な機会となりました。

在学生 × 学部長

CROSS TALK

好奇心に任せて多面的に学び、編み出した「策」で社会に挑む。

学部長 足立 光生　4年次生 桐生 侑奈　3年次生 西村 滉　4年次生 大尻 亜弥

※学年は取材時のもの

―なぜ、同志社大学の政策学部を選んだのか？

足立　皆さんが政策学部に入学した理由を聞かせてください。

大尻　高校時代からとても知的好奇心旺盛で、統計や法律、国際政治に興味がありました。ただ、大学で学ぶとなると、本当に自分に向いている分野は何なのかわからない…。そこで、1年生の段階で幅広い分野を学び、じっくりと自分の学びたいことを探せる政策学部を選びました。

足立　当学部は「行政・政治学」「法律学」「経済学」「組織・経営」を4本柱とし、1年生からこれらを幅広く学べることが大きな特長。「政策」の視点から四つの分野の学びをまんべんなく学べる政策学部は打って付けかもしれません。

桐生　私は世界史に興味があり、文学部で歴史を学ぶことも考えました。しかしよく考えてみると、歴史は「法律」「政治」「経済」によってつくられていくものです。これらを総合的に学べるのは、同志社の政策学部しかないと考えました。

西村　高校時代がコロナ禍だったため、「“人命”か“経済”どちらを優先する?」という議論が一部で見られました。こうした問題を解決するには、政治・経済・法律といった個別の学問を学ぶだけでは対応しきれないのではと思い、これらを網羅的に学べる政策学部を選びました。

足立　当学部の教授・講師陣はもともと国際機関で活動していた方、シンクタンクの研究員など、それぞれが「その道のプロ」と言ってもいい専門家ばかり。こうした先生たちから幅広く学べるのは、政策学部の強みですね。

予想を超えた、政策学部の学び

桐生　本当に1年次は様々な分野を横断的に学べましたよね。私はあらゆる学びを吸収したいゼネラリスト志向だったので、とても自分に合っていると思いました。

大尻　「幅広く学べる」というのは入学してからも予想していた以上で、そのおかげで私自身、ボスニア・ヘルツェゴヴィナの地域研究という自分のテーマを見つけることができました。先生方の学生に対するサポートや、少人数制での学びがとても自分に合っていたため、このまま大学院に進学しても安心して学び続けられると思いました。

足立　入学してすぐにFYE（First Year Experience）というオリエンテーション科目を設けています。まさに少人数制でグループワークやディベート、フィールドワークの基礎を学び、同時に学生同士や学生と教員の絆を育んでいます。

西村　大学の授業は座学が中心になると思っていたのですが、FYEの授業からいわゆるアクティブラーニングの機会が多く、良い意味で予想を裏切られました。

これまで最も印象的だった学びは？

足立　これまで皆さんが体験してきた学びのなかで印象的だったものは何ですか? また、その学びから皆さんが得られたものを教えてください。

大尻　ゼミのフィールドワークでボスニア・ヘルツェゴヴィナとドイツ、オーストリアの三地域を訪れました。特に印象に残ったのがボスニアです。これまで授業で学んできた民族紛争や虐殺の歴史の現場に立ち、こうした出来事が「なぜ」起こったのか、強い関心を持つようになりました。

桐生　私はゼミである自治体のスポーツを通じた健康増進策に関して調査し、政策提言を行うフィールドワークを体験しました。自治体の職員や企業の方々など、提言につなげるためのヒアリングをたくさん行ったのですが、こうした活動を裏づけるためのデータ分析の大切さを実感することができました。

足立　データ分析とフィールドワークは政策学部の学びの両輪です。1年生の秋学期から「アカデミック・スキル」という授業を通じてデータ分析の基礎、調査や事例整理、読解を学びます。

桐生　分析やフィールドワークでインプットした情報を、学生同士で議論を重ねて協働して政策提言としてまとめ、アウトプットできることに学びの楽しさを感じました。

西村　私のゼミでは環境問題へのアプローチとして、現在主流の「パッケージ販売」から、ムダを削減できる「量り売り」文化に注目し、これを促進するためのイベント企画と運営を行いました。運営の主体は私たち学生。各NPOや企業の協力のもと、住民の皆さんに「量り売り」の実践を促すイベントを企画・運営し、行政と連携して京都で「量り売り」をしているお店をまとめたマップを作成するなど、とても貴重な体験ができました。

足立　フィールドワークや政策提言、イベント運営といった政策学部の学びの醍醐味を、もっと受験生に知ってもらいたいですね。学生が中心になってグループで行動して試行錯誤し、何かを成し遂げる…これが学びの楽しさなんですよ。

身につけた学びを、これからどう活かす？

足立　皆さんはこれまで経験した学びを、どう今後につなげていきたいですか?

大尻　自分の研究テーマが見つかり、その探究に向けて取り組むための積極性が身につきました。大学院に進学し、一番関心を抱いているボスニア・ヘルツェゴヴィナの「民族政党」を研究したいと思います。

足立　探求したいテーマを見つけられて良かったです。当学部では、学部を3年生で卒業して大学院（総合政策科学研究科）に入学できる早期卒業制度も用意しています。

桐生　私は3年次から大学院の授業を受講できる制度を利用しました。院生や留学生、社会人と一緒に学ぶのはとても刺激的な体験でした。そんな学びから得たのは、深い思考力です。4月からは国会職員として、国会議員の政策立案業務をサポートします。業務のなかで、国政に関する情報収集や議員の方々の要請に応じた各種調査などを行います。政策学部での学際的な学びが必ず役立つと思います。

西村　就職活動はこれからなのですが、企業で働くことを希望しています。在学中のイベント運営では、多くの人を巻き込んで一つのイベントを作り上げました。ここで様々な人と協働した経験から、多角的な視点と様々な立場にある人の気持ちを理解する力を身につけられました。きっと就職活動はもちろん、社会人になっても活きてくると思います。

足立　他者の個性・多様性を理解して尊重し、社会を導く人を育てるのが当学部の目的。既成概念にとらわれず、様々な壁を超えて社会を導く提言を行ってほしいです。

西村　民間企業で様々な業界の人々や行政などと協働し、これまでになかったような大きな仕事を成し遂げたい、というのが私の目標です。

足立　まさに次世代の頼もしいリーダーですね。

進学を目指す受験生へのメッセージ

足立　それでは、受験生に向けてアドバイスやメッセージをお願いします。

大尻　「学び」への好奇心や積極性があれば、自分のやりたいことを学べるのが政策学部。入学するための受験勉強も将来やりたいことをするための大切な経験なので、好奇心を持って取り組めば、大学での学びの基礎になると思います。

桐生　政策学部では多種多様な授業があり、幅広く学ぶのも一つの専門を究めるのも自由です。大学に入学してから、学ぶことが本当に「楽しい」と思えるようになりました。

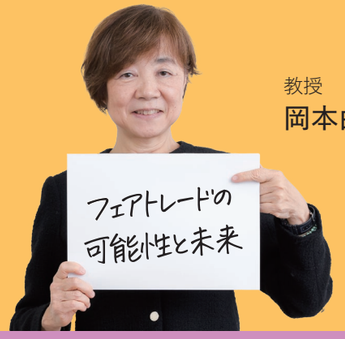
西村　私もそうです。高校時代の勉強には、どうしても「社会とのつながり」を実感できませんでした。政策学部では入学してから、じっくりと「自分は何を学びたいのか」を模索することができます。そうしたプロセスで、自分の知識や視野を広げることができました。そして社会とのつながりを実感しながら学ぶことで、ますます成長できたと思います。

足立　政策学部は2024年に20周年を迎えました。それを記念して掲げたスローガンは「学部をはみ出せ、その“策”で挑め」。今後もアクティブラーニングを重視した多角的な学びで社会人基礎力を培い、豊かな人間力を育てていきたいと思います。先行きが見えにくい世の中ですが、政策学部で身につけた力を発揮し、社会の課題にチャレンジしてください！

教員の研究紹介

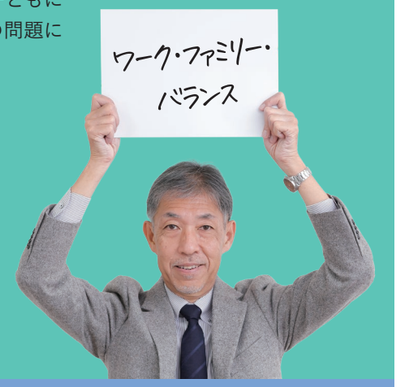
経済学 / 組織・経営 / 法律学 / 行政・政治学

1990 年から 20 年間、アジアを中心に国際経済・国際開発に関する研究を行ってきた。世界銀行の出版物の中で『東アジアの奇跡』と呼ばれる本がベストセラーとなる程、アジアの中でも特に東・東南アジア地域の経済発展は目覚ましく、民間の自由貿易・投資活動がその原動力であった。しかし、2010 年代にアフリカのウガンダという国を訪問する機会があり、自由貿易・投資の恩恵が必ずしも多くの小規模農家に行き渡っていない実情を目の当たりにし、フェアトレードの可能性を探るに至った。現在、アフリカを対象としてフェアトレードのインパクト評価を行っている。フェアトレードは決して万能薬ではないが、小規模農民、とりわけ、女性農家のエンパワメントにつながっていることが明らかとなりつつある。フェアトレードは、2015 年、国連総会で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の達成手段として今後、さらに、重要性を増す可能性があるといえよう。



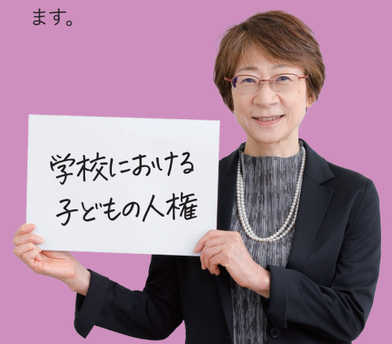
教授
岡本由美子

私の研究テーマは「ワーク・ファミリー・バランス」です。ワーク・「ファミリー」・バランスとワーク・「ライフ」・バランスは、どちらも仕事とそれ以外の生活のつながりという点では似ていますが、特に「ワーク」との関係では、私は「ライフ」よりも「ファミリー」の方が重要だと考えています。それは、本人がどのような働き方をするかは、少なからず家族のメンバーの生活に影響を与えると思うからです。ただし、「ファミリー」に関しては、配偶者や血縁関係のある子どもだけではなく、法的な関係に限定されない多様なパートナーなど、幅広く捉えて考えることも大切です。今後の私の大きな研究テーマは「親の働き方が子どもの生活に与える影響」ですが、具体的には「病気や障害を持つ子どもの生活と親の働き方」、「シングルマザーの働き方と子どものウェルビーイングの関係」、「働く母親・父親の子どもに対する罪障感」などの問題に関心があります。



教授
藤本 哲史

私は大学院生の頃から一貫して学校における子どもの人権をテーマに研究を続けてきました。この研究を始めたのは、学校では子どもにも人権が保障されるという認識が欠けているのではないかという問題意識があったからです。例えば、皆さんは学校で体罰が禁止されていることは知っていますね。でも、それが明治時代から禁止されていることを知っているでしょうか（1879 年「学校令」46 条）。それなのに、未だに学校から体罰が根絶されていません。また、憲法26条は教育を受ける権利を保障していますが、とくに子どもにとっては、憲法26条によって「学習権」が保障されていると理解されています。けれども、例えば不登校などで学校に通えない子どもの学習権は誰がどのようにして保障するのでしょうか。こうした、子どもの様々な人権を実効的に保障していくにはどうあるべきかを法政策的観点から検討しています。



教授
大島 佳代子

私は、「交通政策」と「組織の効率性」という二つの軸を中心に研究をしています。「交通政策」については、主に通勤行動とテレワークの関係について研究しています。コロナ禍において、移動制限やテレワークの進展といった、大きなライフスタイルの変化を経験し、都市交通に対する需要も大きく影響を受けました。出勤を必要としない人にとって従来の定期券は馴染みません。今後、社会全体にとってどのような運賃体系が望ましいかなどについて研究を進めています。「組織の効率性」については、自治体の行政サービス生産・航空会社の輸送サービス・空港の経営など、様々な組織の活動における効率性を計測し、その要因を解明する研究を進めています。例えば、市区町村における行政サービスの生産においては、人口集積による効率化と人口過密による非効率化の弊害が同時に起きていることを明らかにしました。より良い都市の在り方を検討する上で、どのような要素が効率化に寄与し、何が効率性を阻害するか、は非常に重要です。

准教授
安達 晃史

Message —卒業生からのメッセージ—

政策学部の学びを生かし社会の多方面で幅広く活躍するOB・OGのメッセージ

法務省矯正局

加藤 葵さん（2009年3月卒業）

“理想と現実を意識して立ち直りを支援する”

刑務所や少年院等で、罪や非行を犯した人の立ち直りを支援しています。在学中にゼミの風間教授から「政策とは、理想と現実のギャップを埋める働きかけのこと」と教わり、現場で何が起こっているか状況を把握する重要性を学びました。政策学部では国家公務員の受験科目を幅広く学べるため、国家公務員I種試験の受験には非常に有利でした。再犯のない理想の社会を実現するため、犯罪者の現実に耳を傾け、再犯防止策をプランニングしていきたいと思います。

キリンホールディングス株式会社

小川 隼史さん（2023年3月卒業）

“利益追求だけでなく社会に貢献していきたい”

在学時には足立先生のもとで持続可能なビジネスプランを提言し、「経済産業大臣賞・ビジネス大賞」を受賞しました。その経験を通じて、自身の利益だけでなく、社会にどのような貢献ができるか俯瞰して捉える力を養いました。今現在、大手ドラッグストアに向けて酒類を営業していますが、私が目指しているのはCSV営業の実践。CSVとは、経済的利益だけでなく社会的な価値も創出していこうという考え方のことで、まさにゼミでの学びがここに生きています。

外務省

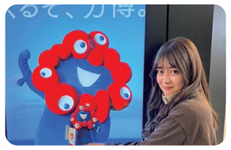
竹林 太郎さん（2018年3月卒業）

“国際社会の課題に向けて学んだ力を活かす”

政策学部では、主に経営組織論・組織心理学を学びました。特にゼミ活動の一環で取り組んだSWOT分析（強み・弱み・機会・脅威）を用いたビジネスモデルの立案を通して、多角的分析や課題解決できる力が身につきました。現在の仕事では、国連外交の最前線で国際社会の課題を多角的な観点から分析し、要因・原因が何かを特定して、日本として貢献できることは何かを考える力が求められますが、政策学部で学んだことが大いに活かされています。

株式会社博報堂

輪島 紬さん（2024年3月卒業）



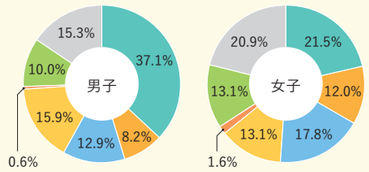
“プロデューサーとしてプロジェクトを推進”

ビジネスプロデュース職（営業）としてクライアントの課題発見からアウトプットまで一気通貫でプロジェクトを推進し、CMやWebなどの媒体選定からSNS運用まで仕事内容は多岐にわたります。ゼミではビジネスコンテストの出場に向けて「戦略構築～施策策定」まで一連のフローを学んだことにより、オールラウンダーな人材として成長できました。政策学部で身につけた「プロジェクトを前に推進する力」を広告代理店の仕事で発揮できています。

就職DATA

活躍のチャンスはあらゆる分野に広がっています。

就職者の業種別比率（2024年度）



※率（%）は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。

主な就職先（2024年度）

- 東京海上日動火災保険株式会社
- 伊藤忠商事株式会社
- 国税専門官
- 日本テレビ放送網株式会社
- 株式会社日本政策金融公庫
- 全日本空輸株式会社
- 株式会社資生堂
- キッコーマン株式会社
- パナソニック株式会社
- 株式会社クボタ
- 株式会社電通
- サントリーホールディングス株式会社
- 楽天グループ株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- ユニ・チャーム株式会社
- 株式会社NTTデータ
- TOPPAN株式会社
- 関西電力株式会社
- ダイキン工業株式会社
- 株式会社日立製作所

教員紹介

私たちが、あなたの学びをサポートします！

学べる主な専門分野　行政・政治学　法律学　経済学　組織・経営

准教授
安達 晃史
ADACHI Koji

交通政策・組織の効率性・
地域政策

教授
足立 光生
ADACHI Mitsuo

投資、市場、企業、ならびに
金融経済教育

教授
藤本 哲史
FUJIMOTO Tetsushi

ワーク・ファミリー・バランス

教授
畑本 裕介
HATAMOTO Yusuke

現代生活の在り方、
社会福祉（行政）の政策分析

助教
伊川 萌黄
IGAWA Moegi

環境／エネルギー／貧困問題
に関する実証研究

教授
井口 貢
IGUCHI Mitsugu

文化・観光政策の要諦としての
人文知の所在

教授
入江 容子
IRIE Yoko

地方自治体の組織的問題
−構造・管理・政策−

教授
柿本 昭人
KAKIMOTO Akihito

近代社会の思考システムを
歴史的に探求する

教授
川口 章
KAWAGUCHI Akira

ワーク・ライフ・バランスと
ジェンダー平等

教授
川井 圭司
KAWAI Keiji

スポーツの法と政策

教授
川上 敏和
KAWAKAMI Toshikazu

ゲーム理論の応用、
人や主体間の協力行動

教授
川浦 昭彦
KAWAURA Akihiko

公共選択

教授
風間 規男
KAZAMA Norio

政策をめぐるネットワークの
役割についての研究

准教授
小谷 真理
KOTANI Mari

環境基準の正統性、行政裁量
の統制、気候変動と法政策

教授
久保 真人
KUBO Makoto

働きやすい組織と個人の
ウェルビーイング

教授
真山 達志
MAYAMA Tatsushi

行政学、政策形成論、
政策実施論

教授
武藏 勝宏
MUSASHI Katsuhiro

議会制度、立法過程、
直接民主制

助教
中原 慧
NAKAHARA Akira

教育社会学・移民研究・
格差問題

教授
中島 恵理
NAKAJIMA Eri

ローカル SDGs と
ソーシャル・イノベーション

准教授
中尾 祐人
NAKAO Yuto

法学、行政法、行政調査

准教授
根岸 祥子
NEGISHI Shoko

先進国・開発途上国における
国際資本の役割

教授
新見 陽子
NIIMI Yoko

国際開発・国際協力・ジェンダー

教授
野田 遊
NODA Yu

地方自治研究

教授
野間 敏克
NOMA Toshikatsu

地域経済にとって望ましい
地域金融の研究

教授
岡本 由美子
OKAMOTO Yumiko

フェアトレードの
社会的インパクトと今後

教授
大島 佳代子
OSHIMA Kayoko

学校における子どもの人権と
その保障

教授
多田 実
TADA Minoru

感情科学に基づく
マーケティングリサーチ

教授
田中 秀樹
TANAKA Hideki

現代社会における
人材・組織マネジメント

教授
田中 宏樹
TANAKA Hiroki

少子高齢社会の地域経営

准教授
富樫 耕介
TOGASHI Kosuke

国際政治学（紛争研究）、
旧ソ連地域研究

助教
辻 優太郎
TSUJI Yutaro

国立大学財政・教育政策の
形成過程

教授
月村 太郎
TSUKIMURA Taro

バルカン地域研究、
地域紛争比較研究

教授
吉田 徹
YOSHIDA Toru

政治学
（比較政治学、ヨーロッパ政治）

政策学部についてよくわかる「ハンドブック」を
毎年発行しています。
教員ごとに研究内容や講義・演習・少人数クラスに
ついて紹介しています。

政策学部の多彩な側面が感じとれますので、
ぜひ二次元コードからご覧ください。

FACULTY OF POLICY STUDIES
DOSHISHA UNIVERSITY

学部をはみ出せ、その“策”で挑め。

20 周年のロゴに込めた思い

政策学部は、2024 年度に創立 20 周年を迎えました。
20 周年スローガンである、学部をはみ出せ、その “ 策 ” で挑め。

同志社大学政策学部では、一つの分野に留まらず、幅広い領域を学びます。
そして、まだ世の中に顕在化していない問題を見つけ出し、あらゆる専門分野の学びを総合した “ 策 ” で社会を導く力をつけていきます。

社会の型にはまるのではなく、枠からはみ出していこうとする政策学部の思いをこのロゴに込めました。

このグラデーションカラーは、同志社大学ならではの紫と、挑戦していく力強い想いを込めたビビッドカラーを合わせて、
唯一無二の存在感を表現しています。

変化の激しい社会の中で、今後ますます必要不可欠となる同志社大学政策学部の学び。
さらにその先もずっと続く未知なる道へ向かい、一人ひとりが “ 策 ” を用いてはみ出していってほしいと願っています。

同志社大学
Doshisha University
https://www.doshisha.ac.jp/

政策学部

政策学部事務室
〒 602-0047
京都府京都市上京区新町通今出川上ル近衛殿表町 159-1
TEL 075-251-3107　FAX 075-251-3108
E-mail ji-seijm@mail.doshisha.ac.jp

政策学部に関する
最新情報は右記へアクセス！

https://policy.doshisha.ac.jp/

Access

新町キャンパス

- 京都市営地下鉄烏丸線「今出川」駅から徒歩10分
- 京阪電車「出町柳」駅から徒歩25分
- バス停「上京区総合庁舎前」から徒歩3分

入試に関するお問い合わせ先

入学センター入学課
TEL 075-251-3210
FAX 075-251-3082
E-mail ji-nyugk@mail.doshisha.ac.jp

入試に関する最新情報は

https://www.doshisha.ac.jp/admissions_undergrad/entrance_exam.html